

インクルーシブ教育へのアプローチとしてのクィアペダゴジー Queer Pedagogy as an Approach to Inclusive Education

有森丈太郎, トロント大学
Jotaro Arimori, University of Toronto

私が性の多様性と日本語教育というテーマに取り組んで4年半になります。日本語教育に関わるようになった当初から性的マイノリティ当事者として居心地が悪かったり、疑問を感じる場面が多々ありました。長いこと「マイノリティだし仕方ないか」という気持ちでしたが、それが継承語教育のグループに勉強会の講師を頼まれたことが契機で変化しました。テーマを決めるにあたり子ども時代の経験を振り返ったのですが、自分のことを名前では呼べない年齢になった頃、どの自称詞を使うかで悩んだことを思い出しました。私の方言では男性は「オイ」の一択です。当時の私にはそれが男っぽすぎるように感じられてどうにも抵抗があり、考えた末に「ボク」を選びました。それでも小学校から高校まで周りに「ボク」なんて言っている男子は他におらず、進学やクラス替えで初めて話す相手に「ボクさあ」と言うのは結構勇気がいるものでした。その経験から、勉強会では日本語の男女差について性的マイノリティの子どもの観点から話をするにしましたのですが、準備段階で知った性的マイノリティ、特に性別違和を抱える子ども達の苦悩は自分の経験や想像を超えるものでした。日本語の学習者が同じような思いをしていないかと考えてみると、改めて思い当たる点がいくつもあり、それ以来、今回のような機会に話題提供をしています。

教師や学習者が共有してくれた経験を突き詰めていくと、問題の要因は社会における性別二元制と異性愛規範が日本語教育の場にも影響していること、そして、教師が「男性／女性なのだから、こう話すべきだ」という規範意識で学習者の言葉づかいに介入していることの二点にほぼ集約されるようでした。いずれも教師の工夫や心がけで改善できるものです。そこで今回の共有会では教育を性別二元制と異性愛規範に批判的な視点から分析・実践する「クィアペダゴジー」を紹介し、私たちの言語に関する規範意識について問題提起をしてみました。紙面の都合上、ここではおさらいができませんが、皆さんの実践に役に立ちそうな書籍や論文を参考文献に載せています。また、当日のグループディスカッションで書き込んでいただいたスライドに望月良浩さんと私でコメントしていますので、そちらも是非ご覧ください¹。

最後に当日の発表で言及できなかった点について補足します。この共有会に参加して、ご自分のクラスに性的マイノリティがいるかどうかを考えられた方もいらっしゃると思います。ただ、インクルーシブな授業をするために、教師が学習者のジェンダーやセクシャリティを知る必要はありません。授業で家族について話す時、学生の家族構成を知らなくても、多様な家族の在り方を想定して配慮をするのと同じことです。電通の「LGBT調査2018」では約11人に1人が性的マイノリティを自認していると報告されています²。クラスに性的マイノリティがいて当然だという意識で授業を考え、学習者に接することがインクルーシブな学習環境作りへの第一歩になるかと思います。

1.

<https://docs.google.com/presentation/d/1adN1uf2q6DQJtLL6CNjzfflfnyNEHdnrWBstBMD0PIg/edit?usp=sharing>

2. <https://www.dentsu.co.jp/news/sp/release/2019/0110-009728.html>

参考文献

有森丈太郎 (2017) 「ジェンダーアイデンティティの多様性から考える日本語教育」 『CAJLE 2017 Proceedings』 24-33

石田仁 (2019) 『はじめて学ぶ LGBT 基礎からトレンドまで』 ナツメ社

遠藤まめた (2016) 『先生と親のための LGBT ガイド：もしあなたがカミングアウトされたなら』 合同出版

ショールウェシエレーニ・マテ (2019) 「日本語学習者のジェンダー経験：非二元論的ジェンダー観から」 『東アジア日本語教育・日本文化研究』 第 22 輯, 279-297

中村桃子 (2007) 『<性>と日本語 ことばがつくる女と男』 NHK ブックス

山川礼 (2019) 「多様化するジェンダーを学習者の視点から考える」 『Princeton Japanese Pedagogy Forum 2019 Proceedings』 258-267

Arimori, J. (forthcoming, 2020). Toward More Inclusive Japanese-Language Education: Incorporating an Awareness of Gender and Sexual Diversity among Students. *Japanese Language and Literature*, 54(2).

Moore, A. R. (2016). Inclusion and Exclusion: A Case Study of an English Class for LGBT Learners. *TESOL Quarterly* 50, 86–108.

— — —. (2019). Interpersonal Factors Affecting Queer Second or Foreign Language Learners' Identity Management in Class. *The Modern Language Journal* 103, 428–442.